

晴れた雪みちどこでも行ける

雪で埋もれた林の道を
一人足元見ながら登る
靴についでるワカンの隙間から弾ける雪
踏みしめるたびえぐられる音
その雪をまた踏みしめるたび
しばらく続く静かな空間に響きわたる

それは冬のある夜ふしぎな夢を見た
45年前の自分に戻っていた
足元の白い世界
久しぶりの感触

明るくなってふと気づくと
抜けた林に広がる
青白い空と光る大地
思わず立ち止まり見渡す

晴れた雪みち行きたいところ
リズムをつけてどこでもゆける
先ほどまでのえぐられる雪の音も聞こえない
そのうち急な登りになって
押し当て登る膝小僧には
雪が妙に柔らかであったかく感じるようだ

気がついたらそこはくんだり坂
松葉たくさん混ざる白い道
足跡消しながら
しゃがんで滑っていた

これはさっきの自分の足跡かな
滑り切って前を見る
その頃の昔の今はもう無い
元谷小屋が待っていた

雪で埋もれた林の道を
一人足元見ながら登る
靴についでるワカンの隙間から弾ける雪が
踏みしめるたびえぐられる音
その雪をまた踏みしめるたび
しばらく続く静かな空間に響きわたる